

社会

➡ 3年生 | 「学校のまわりの様子」

アクティブ・ラーニングに
関連する指導アイデア

1. 私の考えるアクティブ・ラーニング

私はアクティブ・ラーニングとは「脳働的な学び」と捉えている。つまり頭脳が働くような授業こそがアクティブ・ラーニングだと考えているのである。逆に私が危惧しているのは、アクティブ・ラーニングを「活動的な学び」と捉え、グループ学習や話し合い活動を取り入れ、児童が活動していればよしとしている授業である。

最初に活動ありきでは、以前のような「はいまわる社会科」に陥る危険があるのではないだろうか。

2. 私が目指すアクティブ・ラーニング

社会科で「脳働的な授業」と考えて真っ先に浮かぶのは、故有田和正先生の実践である。例えば3年生のスーパーマーケットの授業。有田先生の授業は「スーパーの試食をしてくること」という宿題から始まる。必ずしも積極的な気持ちになれるものばかりではない中、これは楽しい課題である。児童は必然的に自分から宿題をしに行く。そして活動の後、「商品をなぜお客に無料で食べさせているのか」という問いが自然と生まれてくる。体験活動から課題を発見し、探求していく。これがまさにアクティブ・ラーニングである。

先生は「材料七分に腕三分」との言葉も残されている。脳働的な授業をするためには、事前の教材研究こそが最も重要であると私は捉えている。



「授業づくりの教科書
社会科授業の教科書」
有田和正著／さくら社

▲有田先生はこの他にも
多数の著書を残している

3. 私の考えるアクティブ・ラーニングの授業プラン

「学校のまわりの様子」の単元では、自分の学校の周りを探検して見つけたものを絵地図にし、そこから地図記号を使って様子をまとめるという形で進めることが多い。野外に出て活動しながら学習していくので、児童はアクティブに見える。しかし、児童に課題意識をもたせてから活動させるのと、何となく活動させるのでは大違いである。

そこで重視したいのが最初の導入である。まず、教師が自らの足で学区を周る。例えば、最初に見学をするのが通学路の〇〇一丁目だったら、その特徴を表すキーワードを考え、それに沿った写真を撮影する。この時、どこなのかがすぐわかる全景と、一箇所をアップした近景を撮影しておく。児童には近景を見せ、「この場所はどこだろう？」と投げかける。

子どもは「〇〇を探せ!」的な活動は大好きである。社会科が好きになる第一歩として、まずはゲーム感覚で学習に入っていきたい。

次に、〇〇一丁目のキーワードをみんなで考える。だいたい教師が撮影した写真のテーマになるが、そこにこだわらなくてもよい。最初のねらいは学習スタイルを学ぶことだからである。

もし児童が使えるデジタルカメラがあれば、学区探検をする前に同じようにそれぞれ自分の通学路で撮影し、クイズを作らせる。こうした活動の後に学区探検を行えば、より課題意識を持って活動することができるのではないだろうか。

社会科においては、教師が教材研究をし、児童が自ら学びたいくなるようなネタを準備し、学習計画を立てることが、アクティブ・ラーニングにつながる最重要点と私は考える。